

保幼小中一貫教育だより ～豊かな自然と豊かな人材で豊かな子どもを育てる～



豊能の風

発行：豊能町教育委員会 第45号 R3.5.1

令和3年度 第1回豊能町小中一貫教育推進研究会 保幼小中合同研修会 (WEB開催)

4月21日、保幼小中合同研修会を開催しました。当初は、東能勢小学校を会場に開催の予定でしたが、「大阪モデル」が「レッドステージ2」に警戒レベルが引き上げられたことを受け、内容の一部を延期し、講演会のみWEBで開催しました。

講演会には、講師として京都市教育委員会学校指導課参与ならびに京都市まなびの街探究館参与の初田幸隆先生をお招きし、「これからの社会と求められる資質・能力、そして学校」と題し、ご講演いただきました。初田先生は、京都市東山区での「5つの小学校と2つの中学校」の統合及び施設一体型小中一貫校「東山開晴館」の開校に携われ、2011年、同校の開校に伴い初代校長に就任され、5年間校長としてお勤めになられました。

講演の後半には、「育てようとする資質・能力の育成のための教育課程とその具体」について、東山開晴館での実践をご紹介くださり、先生方は、小中一貫教育校のイメージをもつことができました。

これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育むためにどのような新しい学校をつくるのがよいのか、先生方一人一人が考えられたことと思います。



役場本庁(大会議室)から配信し、先生方は各学校園所で視聴しました。

◆先生方のふり返しシートを紹介します。(一部抜粋)

- 学習したこと、経験したことを次の学年に活かし、積み上げていき、子ども自身が実感できるようにするためにも、キャリアパスポートの充実が大切だということを感じた。
- 複数の教員で子どもたちをみる、それぞれの視点から見えるよさを共有し、その1年だけでなく、長期的に子どもの育ちを見取れるシステムづくりを学校全体として取り組んでいきたい。
- 初田先生がおっしゃっていたように、毎日の教育活動が、学校教育目標が達成されるための仕組みになっているか、改めて点検が必要だと感じた。先生の「ただ授業をし、行事をこなしていくだけ」という言葉が印象に残っている。小中一貫教育を学校の主体的な取り組みにしていけるためにも、何をめざすのかを考え、これまでのことは大事にしながらも、今とこれからの子どもが社会を生き抜いていくことができる資質能力をつけられるよう、学校教育目標を見つめ直し必要に応じて改善していきたい。

※第1部に予定していた「保幼小中一貫教育説明会(①豊能町のめざす保幼小中一貫教育、②豊能町の小中学校の再編について)」につきましては、今後の状況を見て、各学校園所を訪問し、開催いたします。

令和3年度 第1回東能勢中学校区学校運営協議会設立準備委員会 WEB開催



4月28日、第1回東能勢中学校区学校運営協議会設立準備委員会をオンラインで開催しました。昨年度立ち上げた準備委員会ですが、今年度は新たに学校園所の先生方も委員として入っていただきました。今年度は、7回の開催を予定しています。

今回の主な内容は、「学校運営協議会の概要説明」「昨年度の活動状況と今年度の計画について」「学校運営協議会の規則(案)について」「保幼小中一貫教育の進捗状況報告」でした。

◆新しい学校づくりについて、顧問の小松郁夫先生からご助言いただきました。

「新しい学校をつくるということは、やってみないとわからないことが多いですが、一緒に工夫して進めていくということが大切です。忘れてはいけないのは、中心は子どもたちであるということ。大切な時間を過ごす子どもたちにとって何がよいのかを考えていけばよいのではないのでしょうか。

学校づくりは、地域のみんなでやるものです。コミュニティ・スクールというのは、地域立学校というイメージをもってもらえればよいと思います。

建物やカリキュラムをつくるというのは、仏像をつくる作業と同じで、そこに魂を込めていくことが大切です。」

「とよの未来科」創設にむけて ～ふるさととよの⑨～

【豊能町の宝物探し】

4月22日に、吉川小学校学校サポーターの向井さんに初谷川を案内していただき、この季節ならではの動植物について教えていただきました。



昨年10月に案内していただいた時とは違い、木々たちは青々と茂り、冬眠から覚めたヒキガエルの声が聞こえてきました。

豊能町でしか見られない景色がそこにはあり、長い年月をかけて脈々と受け継がれてきた歴史を感じることができました。

「とよの未来科」では、豊能町の宝物を子どもたちが発見し、子どもたち自らその素晴らしさを伝えていく機会の設定を検討していきます。

↑何の写真か分かるかな？

